



六中だより

～自主・勤勉・共生～

12月号 No. 5
令和3年12月16日発行
港区立六本木中学校
校長 石原 嘉人

今年の漢字



校長 石原 嘉人

2021年の世相を一字で表す「今年の漢字」は12月13日に「金」と決まりました。選ばれた理由は、東京オリンピック・パラリンピックで日本人選手が金メダルを過去最多の数を獲得したことなどがあげられています。この「金」という文字が選ばれたのは4回目で、過去一番選ばれている漢字だそうです。コロナ関連の暗い漢字より、オリンピック・パラリンピックでの活躍を連想させる漢字の方がいいですね。

私の場合は「挑」です。今年も、昨年度から続く前例のないコロナ禍での学校運営となっています。昨年度は、安全を最優先して「守」る姿勢を貫きました。それはそれで、必要なことであり、大切なことですので後悔はしていませんが、反省点はたくさん残っています。

今年度は、昨年度の反省を生かして「どうやればできるか?」ということ先生方と一緒に考え、実施方法を工夫し、実施しました。教育委員会も「学びを止めない」という考えを貫いていたことも後押しとなりました。9月上旬には、思い切ったオンライン授業を行い、タブレットの導入を一気に推し進めたのも今年です。教育委員会によるインフラの整備も進んでいます。

学校行事についても、運動会、合唱発表会と例年とは違うやり方ではありますが、生徒と一緒に感動を共有することができました。保護者の方々の参観者数を絞ったので、何とかして行事の様子を伝えようと先生方と協力して動画撮影隊を結成し、編集→YouTubeへの限定公開を行うことにもチャレンジしました。その結果、動画撮影、動画編集の技術が上達した1年でもありました。

同時に、学校行事の重要性を再認識した1年でもありました。生徒にとって欠かすことのできない学校行事、これからもどのようにすればできるかということを考えながら実施してまいります。

現在は、年明けに行う「百人一首大会」に向けて準備が進んでいます。「二年越し 宙に舞いけり百の歌」のスローガンの下、校内のいたるところに、実行委員会作成の「百人一首確認シート」が掲示されています。立ち止まって確認している生徒を見るたび、「このままコロナが落ち着き、無事に開催できますように・・・」と祈らずにはられません。



渡り廊下に掲示された「スローガン」



掲示されている「百人一首確認シート」



一昨年度の「今年の一首」

道徳授業地区公開講座

12月11日（土）、東京都済生会中央病院救命救急センターERに所属している諏江宏美様を講師に迎え、道徳授業地区公開講座を開催しました。

この講座では、新型コロナウイルスと最前線で戦う医療従事者の姿から「いのちの大切さ」「働くことの意義」「誰もが互いを思いやり、差別のない世の中で生きることの大切さ」などの理解を一層深め、学校生活を通して学んだことを主体的に実践する意欲を育むことを狙っています。

講師の諏江宏美様は、教員を目指して音楽大学に進学し、教員免許を取得します。音楽大学を卒業後は、作曲家の先生との出会いから、テレビ局で音楽関係の仕事をしていたのですが、東日本大震災を機に看護師免許を取得し、看護師になったという経歴の持ち主です。

その時その時、自分の考えにしたがって進路変更を繰り返しながらも、全てのステージにおいて全力で取り組んでいく姿には頭が下がります。講演終了後に校長室で話を伺うことができたのですが、諏江様は、今後も、さらに新しいステージへステップアップする準備をなさっていらっしゃるようです。すごいですね。

諏江様の講演では、親族であったとしても最期の瞬間に立ち会うことができないコロナの恐ろしさや医療従事者として感染防止のために家族であっても外食は禁止されており、最大限の注意を払って生活していた様子を紹介してくださいました。

講演の中では次の言葉が特に印象に残りました。

「自分を大事にしてください。自分を大事にできない人が他人を大事にできるはずはありません。」

「悩んで眠れないときは、眠れない時間を悩む時間としてとらえるのではなく、戦略を考える時間として使ってください。」

本校の生徒たちに向けては、
「みんなには希望がある。失敗することもある

が、それらすべて無駄なことは一つもない。」
「勉強していく中で、考えることが大切。しっかり自分で考えてください。」

「自分の強みを生かして成長してください。」
という言葉をかけてくださいました。

講演会終了後の保護者・教員との懇談会では、「どうしてもそんなに強くなれるのですか？」という質問がありました。この質問に対して、「たくさん失敗することです。しかし、それらを失敗と捉えるのではなく、人生の肥やしであると考えているのです。成功も失敗も全部意味がある。その時その時をいい加減に生きてはいけません。」と答えてくださいました。

このようにすべてをプラス思考で考えていくことは大切なことですね。

生徒会長はお礼の言葉の中で、次のように述べています。

誰も経験したことのない新型コロナウイルスが流行し、今までとは全く違う医療体制になり、色々な患者がいる中で、そういう人たちと真剣に向き合う心の強さは、過去にいろいろな苦しみや悲しみを味わってきたからこそもてるものなのだと感じました。

僕は医者になりたいという夢を何となく抱いていましたが、今回の話を聞いて、命と向き合うということは、本当に難しいことで、すごく大変だなと思いますが、だからこそすごくやりがいがあるのではないかと感じました。

今日は本当にありがとうございました。



素晴らしい謝辞です。いいお医者さんになってくださいね。

少し心が強くなったと感ずることができた一日でした。